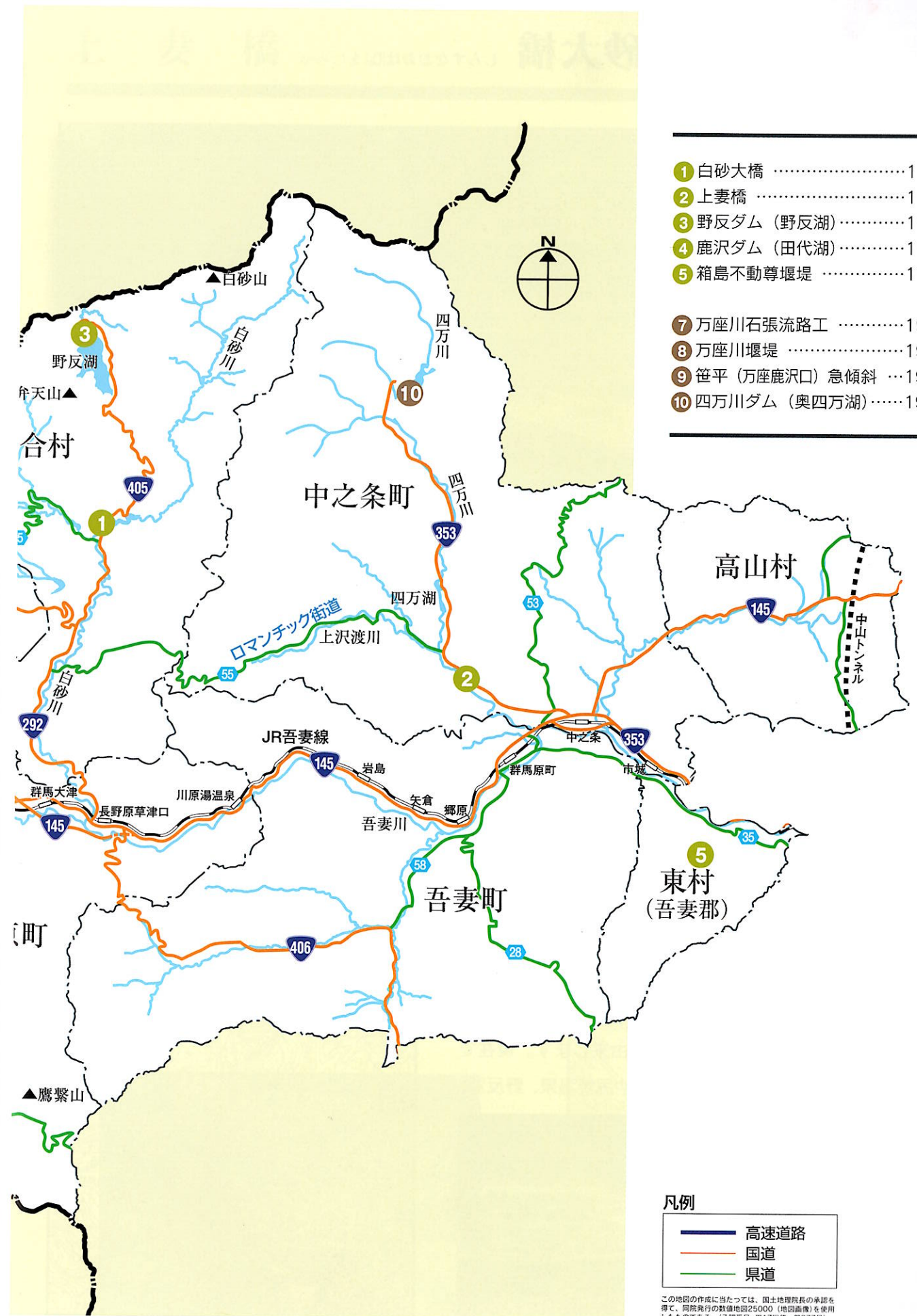


# GUNMA AREA



AREA C  
土木遺産位置分布図



- ① 白砂大橋 .....114
  - ② 上妻橋 .....115
  - ③ 野反ダム (野反湖) .....116
  - ④ 鹿沢ダム (田代湖) .....117
  - ⑤ 箱島不動尊堰堤 .....118
- 
- ⑦ 万座川石張流路工 .....197
  - ⑧ 万座川堰堤 .....197
  - ⑨ 笹平 (万座鹿沢口) 急傾斜 .....197
  - ⑩ 四万川ダム (奥四万湖) .....198

凡例

- 高速道路
- 国道
- 県道

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000 (地形画像) を使用したものである。(承認番号 平17給使、第377号)

# 白砂大橋

しらすなおおはし



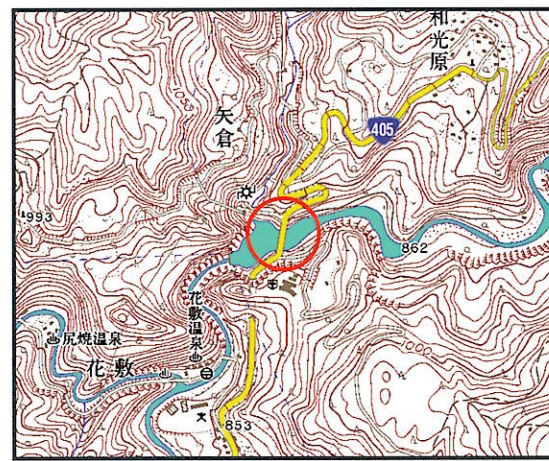
白砂大橋は、交通の安全と快適な走行環境を確保するために、<sup>きょうあい</sup>狭隘道路の整備の一環として建設された橋梁です。橋の形式については、この橋の下流に矢倉発電所の取水ダムがあるため、湖面内に橋脚を設置しないことを前提に中路式ローゼ橋が採用されました。中路式のローゼ橋はアーチ桁の中間に補剛桁を設置する構造の橋梁で、橋全体の剛性が高いことが特徴です。橋の形式名「ローゼ」はこの形式を考えた人の名前に由来します。現在では交通の<sup>あいろ</sup>隘路も解消され、花敷温泉や尻焼温泉、野反湖、世立八滝、天狗の足跡、白砂渓谷などの観光地に大型バスが乗り入れています。



花敷温泉

## 概要

- 所在地 吾妻郡六合村入山
- 路線名 国道405号
- 年代 昭和45年(1970)
- 構造形式 単純鋼ローゼ中路橋
- 主要諸元 橋長94.3m 幅員7.6m
- 管理者 群馬県



(縮尺 1/25,000)

# 上妻橋

かみづまばし



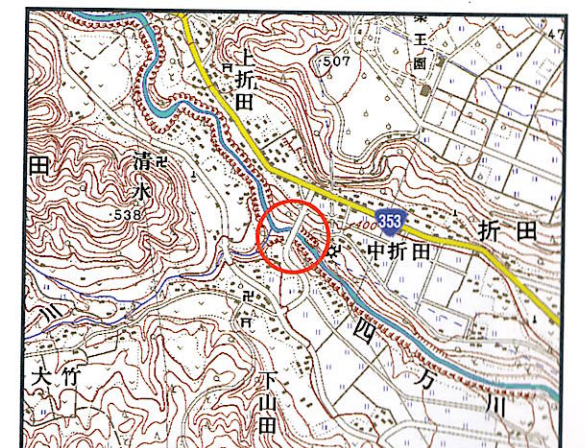
四万・沢渡温泉郷の玄関口に位置する上妻橋は、県内最初のプレストレストコンクリート斜張橋として平成2年(1980)に架橋されました。新しい橋が架橋される以前のこの地には、吊橋が架橋されていましたが、老朽化と社会的な要請に伴い幅員の広い橋に架替られました。この美しい斜張橋の主塔やケーブルは、毎夜ライトアップされ、夜空に幻想的な風情を醸し出しています。



四万温泉

## 概要

- 所在地 吾妻郡中之条町折田～中之条町山田
- 路線名 町道 折田大竹線
- 年代 平成2年(1990)
- 構造形式 PC斜張橋
- 主要諸元 橋長121.7m 幅員9.8m
- 管理者 中之条町



(縮尺 1/25,000)

## 野反ダム (野反湖) のぞりだむ (のぞりこ)



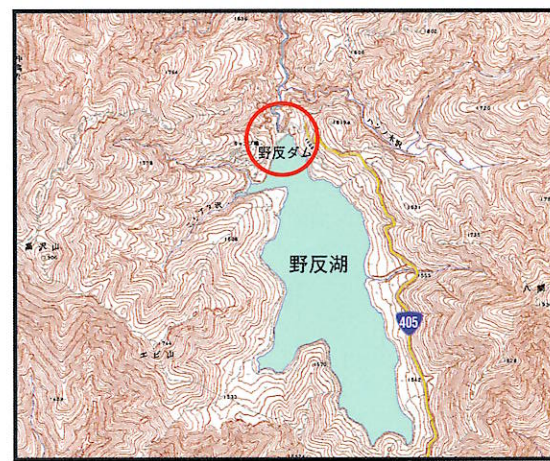
関東地方唯一の信濃川水系・野反ダムは、岩石等を積み上げたロックフィルダムで、下流にある切明（長野）、中津川第1・第2発電所（新潟）の水力発電のためのダムです。古くよりこの地には野反池と呼ばれた自然湖がありましたが、ダム建設に伴い野反湖と改称されました。標高1,514mの野反湖や周辺地域は上信越高原国立公園の特別地域に指定されており、湖畔には各種の高山植物が咲き誇り、ハイキングコースやキャンプ場なども整備され、欧州の高原を思わせる美しい風景が広がっています。



野反ダム堤体

### 概要

- 所在地 吾妻郡六合村入山
- 河川名 中津川
- 年代 昭和31年（1956）
- 構造形式 鉄筋コンクリートフェイスロックフィルダム
- 主要諸元 堤長152.5m 堤高44.0m  
総貯水容量28,700千m<sup>3</sup>
- 管理者 東京電力（株）



(縮尺 1/75,000)

## 鹿沢ダム (田代湖) かざわだむ (たしろこ)



標高1,120mに位置する鹿沢ダムは長いアース式堰堤のダムで、当時の吾妻川電力会社により昭和2年（1927）に建設されました。貯水された水は、約1km離れた田代発電所（現鹿沢発電所）へ地下トンネルで送水され、発電のための動力源となっています。アース式ダムは土砂や粘土などを使用して建設されるダムで、ダムの基礎地盤が軟弱の場合に用いられる形式のダムです。我が国では、古くから灌漑用のダムに多く採用されてきましたが、「田代」と呼ばれるこの地も、昔は軟弱な自然の湿地帯でした。



鹿沢発電所（旧田代発電所）

### 概要

- 所在地 吾妻郡嬭恋村田代
- 取水口 吾妻川ほか
- 年代 昭和2年（1927）
- 構造形式 アースダム
- 主要諸元 堤長981.8m 堤高18.2m  
総貯水容量5,628千m<sup>3</sup>
- 管理者 東京電力（株）



(縮尺 1/50,000)

# 箱島不動尊堰堤 はこしまふどうそんえんてい



箱島不動尊堰堤・上部

## 概要

- 所在地 吾妻郡東村箱島
- 河川名 鳴沢川
- 年代 明治43年(1910)
- 構造形式 レンガ積みダム
- 主要諸元 堤高10.0m
- 管理者 群馬県



(縮尺 1/50,000)

## 関連DATA



箱島湧水の山雀の瀑



名水百選の湧水口



箱島湧水はほたるの里の源でもある

群馬県の北西部にある吾妻郡東村は、村の約8割が森林に覆われ、水と緑に恵まれた自然豊かな山村です。榛名山の麓である同村の箱島地区には、名水としての評価が高い「箱島の湧水」がありますが、この湧水は文治4年(1188)に創建された箱島不動尊のご神木である樹齢数百年といわれる杉の巨木の根元から潤沢に溢れ出ています。箱島湧水の湧出量は一日約31,100m<sup>3</sup>で、湧出地から約15m先の「山雀の瀑」と呼ばれる滝に流れ落ちていきます。

鳴沢川の源流にあたるこの豊富な湧き水を発電のために貯留する施設が箱島不動尊堰堤で、明治41年(1908)から高崎水力電気株式会社により建設が進められ、明治43年(1910)に完成しました。その電力は、近隣の伊香保町や箱島地区などの生活用電力として供給されました。その後、堰堤や発電施設は大正10年(1921)に東京電灯へ、さらに昭和24年(1949)には東京電力株式会社へと移管されましたが、人々の暮らしを支えてきた施設も、昭和29年(1954)の発電所統廃合により廃止となり、箱島不動尊堰堤を利用した電力供給の歴史は幕を閉じることとなりました。しかし、堰堤に貯留される水の一部は水道水として、またマスやヤマメなどの養殖用水として利用されています。

この地には榛名湖に入水自殺した女性の霊を慰めるために、榛名湖の湖底に位牌を安置したところ、数日後に箱島湧水から位牌が流れ出てきたという伝説があります。この位牌は、今でも箱島不動尊に納められているとのことですが、いかなる旱魃にも変わることなく溢れ出る湧水は、不動尊の霊水として人々の信仰を集めて来ました。また、堰堤の下流にはホタルの棲息地があり、小学生や地域の人々を中心に保全活動が行われています。昭和60年(1985)、箱島湧水は国(環境庁)の「名水百選」に選定されました。健康ブームの影響もあり、毎日多くの人々が飲料や生活用水として採水しています。